

1人1台端末の活用による実践事例

学校名	岡山県立水島工業高等学校		
実践者等	岡本秀行	実践日	令和3年10月中旬
実践場面 (教科・科目、学校行事等)	公民「現代社会」		
対象生徒(学年等)	3年生全クラス(5学科、318名)		
単元名 (教科・科目の場合のみ)	現代の企業「企業の社会的責任」		
使用したアプリ等	Forms、Jamboard		
実践の概要(ねらい等)	Jamboard や Forms を活用し、企業の果たす役割について、企業の様々な CSR 活動から理解を深める。		
実践の内容			
<p>(1) 該当の教科書部分を読む。</p> <p>(2) 企業の社会的責任 (CSR) について考える。</p> <p>① 倉敷アイビースクエア (元倉敷紡績工場) のアイビーの意義を、クラスを5人8グループに分け、回答をグループの Jamboard に、タッチペンを使用して書く。</p> <p>② 8グループの Jamboard をサムネイルとして、大型スクリーンに投影し、回答を共有する。</p> <p>③ アイビーは、大原孫三郎が、工場内で働く労働者の健康を考え、室内気温の上昇を防ぐために植栽したものであることを理解する。このほか、多くの社会事業の功績を残していることを知る。</p> <p>(3) 大原孫三郎の功績を理解する。</p> <p>① 端末でビデオ「郷土に輝く人々 大原孫三郎」(岡山県が制作) を視聴する。</p> <p>② Forms 「大原孫三郎の映像を見て」に取り組み、理解を深める。</p> <p>スプレッドシートなどにより回答を共有する。</p> <p>(4) 渋沢栄一について、SDGs 通信を読み返す。</p> <p>(5) 端末でビデオ「郷土に輝く人々 石井十次」(岡山県が制作) を視聴する。</p> <p>(6) 企業は、本業以外に大きな社会的役割を持っていることを知る。</p>			
<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="width: 30%; font-size: small;"> <p>倉敷アイビースクエア 元は倉敷紡績所でした。</p> </div> <div style="width: 60%; text-align: center;">  </div> </div>			
参考となる HP 等			